

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和3年3月22日版

1 実施概要

■実施日時	令和3年2月25日（木）26日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ18名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・ 調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【2月25日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【2月26日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・ 調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約137kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・ 調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・ 食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・ 手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 362.9kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.6kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 70.0kg、②東部地区は 18 袋で 78.7kg、③西部地区は 11 袋で 38.0kg、④南部地区は 16 袋で 60.2 kg、⑤北部地区は 24 袋で 90.3 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 25.8 kg であった。

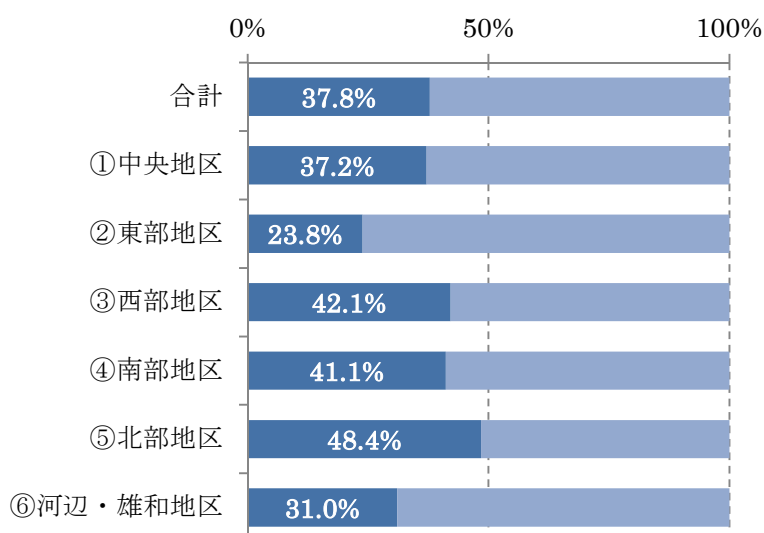
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	362.9	3,630	3.6	36.3
① 中央地区	23	70.0	870	3.0	37.8
② 東部地区	18	78.7	705	4.4	39.2
③ 西部地区	11	38.0	415	3.5	37.7
④ 南部地区	16	60.2	540	3.8	33.8
⑤ 北部地区	24	90.3	810	3.8	33.8
⑥ 河辺・雄和地区	8	25.8	290	3.2	36.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 37.8%、地域別に見ると⑤北部地区が最も高く 48.4%、次いで③西部地区の 42.1%、④南部地区の 41.1%、①中央地区の 37.2%、⑥河辺・雄和地区の 31.0%、②東部地区の 23.8%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	362.92	137.29	37.8%	62.2%
①中央地区	70.03	26.03	37.2%	62.8%
②東部地区	78.66	18.76	23.8%	76.2%
③西部地区	37.98	16.00	42.1%	57.9%
④南部地区	60.16	24.75	41.1%	58.9%
⑤北部地区	90.33	43.76	48.4%	51.6%
⑥河辺・雄和地区	25.76	7.99	31.0%	69.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

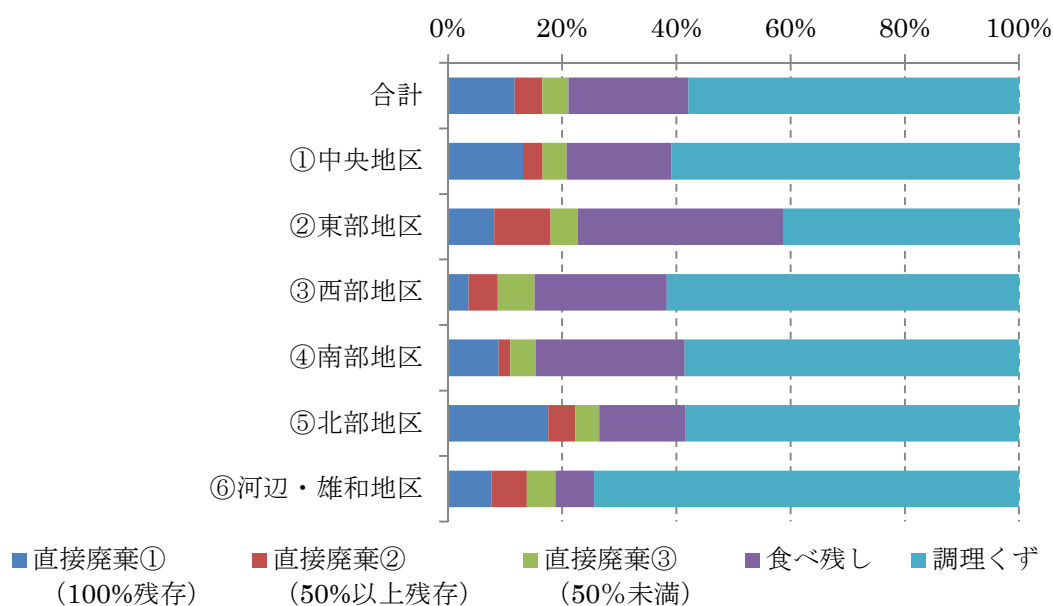
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では40.7%、地区別に見ると②東部地区が最も高く55.8%、次いで⑤北部地区の40.5%、④南部地区の40.2%、①中央地区の37.6%、③西部地区の37.3%、⑥河辺・雄和地区の24.5%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、②東部地区の食品ロスの割合は、⑥河辺・雄和地区よりも31.3ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち11.3%を占めており、⑤北部地区で17.1%と高く、次いで①中央地区が12.6%、④南部地区が8.6%、②東部地区が7.7%、⑥河辺・雄和地区が7.3%、③西部地区が3.5%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では20.3%、②東部地区が34.2%と高く、次いで、⑥南部地区の25.3%、⑥河辺・雄和地区が最も低く6.5%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	40.7%	11.3%	4.7%	4.5%	20.3%
①中央地区	37.6%	12.6%	3.3%	4.0%	17.7%
②東部地区	55.8%	7.7%	9.4%	4.6%	34.2%
③西部地区	37.3%	3.5%	5.0%	6.3%	22.6%
④南部地区	40.2%	8.6%	1.9%	4.4%	25.3%
⑤北部地区	40.5%	17.1%	4.6%	4.0%	14.8%
⑥河辺・雄和地	24.5%	7.3%	6.0%	4.8%	6.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

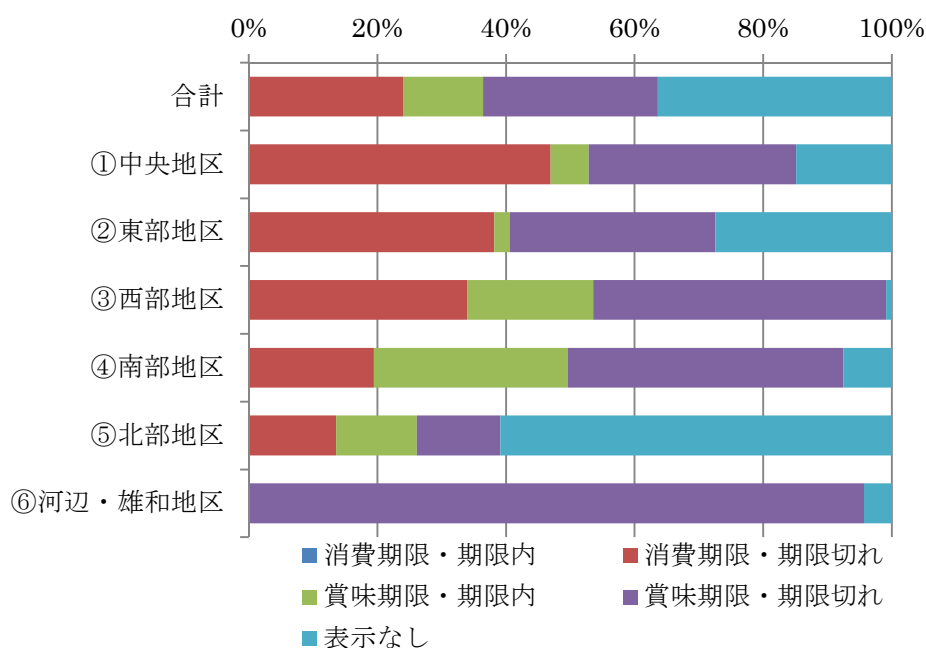
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く36.4%であり、消費期限の表示があったものは24.0%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは39.6%（期限内が12.4%、期限切れが27.2%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、①中央地区が47.0%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち12.4%、地区別に見ると④南部地区が最も高く30.2%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	24.0%	12.4%	
①中央地区	0.0%	47.0%	5.9%	32.2%	14.9%
②東部地区	0.0%	38.2%	2.4%	31.9%	27.4%
③西部地区	0.0%	33.9%	19.6%	45.5%	0.9%
④南部地区	0.0%	19.4%	30.2%	42.9%	7.5%
⑤北部地区	0.0%	13.6%	12.6%	13.0%	60.9%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	95.7%	4.3%

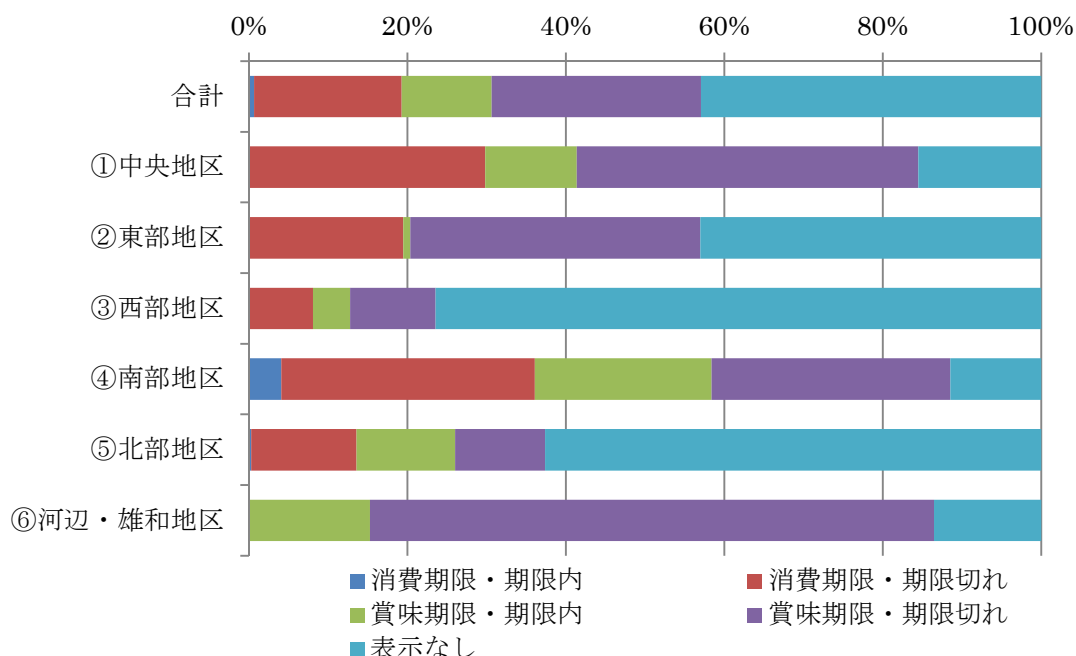
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く43.0%であり、消費期限の表示があったものは19.2%（期限内0.6%、期限切れ18.6%）、賞味期限の表示があったものは37.8%（期限内11.4%、期限切れ26.4%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」は4.1%、「期限切れ」は32.1%と④南部地区が最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち11.4%、地区別に見ると④南部地区が最も高く22.3%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.6%	18.6%	11.4%	26.4%	43.0%
①中央地区	0.0%	29.8%	11.6%	43.1%	15.5%
②東部地区	0.0%	19.5%	0.9%	36.6%	43.0%
③西部地区	0.0%	8.1%	4.7%	10.8%	76.4%
④南部地区	4.1%	32.0%	22.3%	30.1%	11.5%
⑤北部地区	0.3%	13.3%	12.4%	11.4%	62.6%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	15.3%	71.2%	13.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、平成31年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると77.6g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が38.9g/人・日、食べ残しが38.7g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

